

令和6年度 学校評価報告書（目標設定 **実施結果**）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月31日実施)	総合評価（3月18日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①児童・生徒の自立と社会参加を目指した教育活動を実践する。 ②ICT機器等の有効活用による多様な授業の研究・実践を推進する。	①授業改善につながる研究を重ね、よい授業実践につなげる。 ②ICT機器を活用した多様な授業実践ができるように土台作りをする。	①授業実践に生きる研究の充実を図る。 ②児童・生徒がルールやマナーを守って、適切にICT機器を使用できるよう、情報リテラシー教育に努める。	①研究したことを授業実践に生かすことができたか。発信することができたか。 ②情報リテラシー教育を推進し、児童・生徒が決まりを守って機器を利用することが出来るようになったか。	①②ICT機器の有効活用、情報リテラシー教育について等、学部部門の実態に応じた小集団を編成し、授業改善に取り組むための環境設定が行えた。 校内サーバを活用した活動報告や中間報告会と年度末報告会を設定し、学部部門の活動内容の共有を図った。	①②授業改善への取組や授業検討会、報告会のより良い進め方を検討する。 指導案を記録に残すなど、有意義な授業改善の場となるようにする。 研究で得た成果を、短時間勤務の教員にも共有しやすいよう、情報伝達の方法を工夫する。	①② ・小中学校では、1人1台専用端末の導入から4年目になり、使い方が変わってきた。プレゼン資料を作り、皆で見合うことが中心だったが、今は相手との感じ方の共有に時間を割くようになってきている。 ・ICTは文房具と一緒にあるので、評価については通常通りでよい、という考えに至っているので、横浜南でも参考にしてほしい。	①②ICT活用、情報リテラシーについての研究を進める土台を作り、4年間の取組の1年目の研究を進めることができた。 教員の機器活用能力に差があることが課題である。	①②各教員の実践や校内研究で得た学びの成果を学校全体で共有する方法を工夫する。 作成した指導案を記録として残していくシステムを整える。
2	児童・生徒指導・支援	児童・生徒一人ひとりの個性や医療状況を尊重し、教育的ニーズに応じた指導・支援を組織的に行う。	①自尊感情を育み自分や他者を大切にする教育に取り組む。 ②個別教育計画を共有し、児童・生徒の指導・支援の有効なツールとなるようにする。	①児童・生徒の自己理解、他者理解をすすめ、コミュニケーション力の育成に努める。 ②書式の検討も含め、個別教育計画をツールとして、特に目標とすることを共有する仕組みづくりを行う。	①児童・生徒が理解協力する教育活動の場を作ることができたか。 ②個別教育計画を共有する仕組みを作り共有できたか。	①授業や行事、休み時間等に児童・生徒同士の意見交換の場を作るようにし、他者を受け入れ理解する経験を積み重ねた。 児童・生徒主体の活動を取り入れ、各自が達成感を味わえるようにし、自尊感情を育んだ。 ②保護者からの情報や児童・生徒の実態を踏まえ、個別教育計画を作成し、日常的な打合せや会議を活用し、その内容を共有し、日々の指導・支援に活かすことができた。	①今後も、児童・生徒同士が意見交換する場面や主体的に活動する場面を用意していく。 ②引き続き、こまめな情報交換を心がける。 学部・部門で必要な情報共有を行っていく。	① ・学校に求められていることは、勉強だけではなく、人間関係づくりやコミュニケーション能力の育成である。様々な機会や資源を活用して子どもたちを育てていってほしい。 ・入院入所中の子どもたちの「心理的安定」を目指すには、オンラインでは難しい。対面の指導に大きな意味があるので、引き続きリアルの指導を大切に教育活動を進めてほしい。	①他者の受け入れや他者理解の経験を積み重ね、コミュニケーション力の育成を図った。今後も様々な機会を作り、児童・生徒主体の活動を用意していく。 ②設定された会議に加え、日々の情報交換を通し、個別教育計画の共有を行った。短時間勤務の教員との情報共有の方法を工夫することが課題である。	①意見交換や主体的な活動場面を、教員側が意図をもって用意していくことを今後も続けていく。 ②短時間勤務の教員等とのタイムリーで安全な情報共有の仕方について、学部部門の実態にあった方法を探る。
3	進路指導・支援	将来の生活の充実を目指し、進路指導、移行支援、キャリア教育を行う。	①地元校の指導を引き継いで児童・生徒が主体的に自己選択・自己決定できるようにする。 ②一人ひとりに応じた進路指導を行う。	①キャリアパスポートの作成や地元校への引継ぎについて実践を重ねる。 ②地元校と連携しつつ、病院とも連携し、児童・生徒の状況に合わせた適切な進路指導を行うとともに、学部全体で情報共有する。	①キャリアパスポートを引き継いで積み重ねることができたか。 ②地元校や病院と連携して適切な進路指導ができたか、学部で共有できたか。	①学期の節目でキャリアパスポートを作成し、自分を見つめる時間を作り、自らの進路について考える機会を重ねることができた。 地元校とのキャリアパスポートの受け渡しも確実に行うことができた。 ②中学部3年生の進路では、生徒の思いをくみ取り、保護者、地元校、病院、関係機関と協力し、一人ひとりに応じたきめ細かな進路指導を行った。	①キャリアパスポートの活用を校内により根付かせ、自分の生き方を考える学習に活かしていく。 ②引き続き、発達段階に応じたキャリア教育、進路指導を行っていく。 中学3年生の進路先が多岐にわたっているので、進路事務について、ミスのないようチームで業務を行っている。	①② 入院・入所したことで、子どもたちの可能性が狭められることのないように、周りの大人は支援していかなくてはならない。	①地元校からキャリアパスポートを引き継ぎ、本校で活用し、戻っていく地元校に引き継ぐことができた。自分のことや進路について考える学習を積み重ねることができた。 ②一人ひとりに応じた進路指導を行うことができた。進路決定のシステムを中学部全体で理解するまでには至らなかった。	①キャリアパスポートの活用を継続し、定着させていく。 ②ミスのない、チームによる進路指導（中学3年生）を継続していく。 また、神奈川県の入試の仕組みを理解する場を中学部の中で作る。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月31日実施)	総合評価（3月18日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	病弱教育に関する理解・啓発を図り、児童・生徒の地域生活が豊かになるよう支援を行う。	①学校の情報や研修会等の発信を行い、病弱教育についての理解が広がるようにする。 ②児童・生徒が学校生活や地域生活に円滑に移行し継続できるようにする。	①ホームページの充実や研修研究の発信、支援冊子の改訂・周知等で病弱教育の理解をすすめる。 ②復学支援会議等を丁寧に行うとともに、フォローアップの仕組みを模索し、円滑な地域生活が継続できるようにする。	病弱教育についての情報発信し、病弱教育理解に貢献できたか。 ②復学支援会議とフォローアップにより円滑な地域生活の継続を支援できたか。	①学校だより、ホームページ等を通して、学校の教育活動の様子や学校情報、研修会の成果報告等を、保護者、病院関係者、地域へ積極的に発信した。 年度途中に、著作権や個人情報の扱いについて、ルールを校内で確認し、安全な運用を行った。 ②復学支援の在り方について整理し、保護者や病院への発信方法を工夫し、ニーズに応じた形で実施できるようにした。 復学後のフォローアップについて、効率的に紙面で行えるよう準備を進めた。	①今後も様々な方法で本校の取組等を発信していくとともに、著作権や個人情報の保護について、これまで以上に注意を払っていく必要がある。 ②今年度整理した内容を、保護者や病院に分かりやすく伝えることを続けていく。病院と学校とが同じ歩調で児童・生徒の復学を支えられるようにする。 復学後のフォローアップを次年度から紙面で行い、検証し、修正を加えよりよいものにしていく。	①肖像権については、PDFにしても、ぼかしを入れても、ホームページ上に顔写真を載せられない状況がある。イラスト等の使用についても、出典を確認し、利用規約をしっかりと理解したうえで掲載していかななくてはならない。 ②・復学支援は大切なものなので、開催方法や設定時間を柔軟に考え今後も実施してほしい。 ・現在作成中の復学支援のフロー図については、だれが見ても分かりやすいようなものにし活用していくことが重要である。	①学校だより、ホームページ等を通して、学校の教育活動について積極的に発信することができた。一方、著作権や個人情報の扱いを厳格にしたため、児童・生徒の活動場面の写真を掲載できなくなり、文字情報が中心の内容となっている。 ②復学支援の在り方を整理し、校内で共有するとともに、病院にも伝えた。校内での共有と病院への発信は継続課題である。 復学後のフォローアップについて、準備を進めた。	①著作権や個人情報の保護に注意しつつ、受け手のニーズに合わせた内容を模索しながら発信していく。 ②復学支援について、フロー図を活用し、保護者、地元校、病院スタッフに分かりやすく提示し、理解を促す。
5	学校管理 学校運営	①教職員が同僚性を発揮して質の高い教育を展開する。 ②児童・生徒と向き合う時間を確保するために、働き方改革を推進する。	①校内外の協働により、安全安心な教育の場を作る。 ②カリキュラムマネジメントを継続しながら、全教職員が協力して教育に取り組む。	①引き続き新型コロナウイルス感染症対策に取り組む他、不祥事・事故防止を図り、安全安心な教育を行う。 ②時間を有効に使うとともに、学部・部門、職種を超えた協力体制により、組織的な教育活動を行う。	①病院や校内の多職種と協働しての新型コロナウイルス感染防止対策や不祥事・事故防止に取り組めたか。 ②時間の有効活用ができたか、協力体制による教育を行うことができたか。	①病院の感染対策に合わせ、学校のマニュアルを都度改訂しながら、ルールに則り日々の教育活動を行った。不祥事・事故防止については、部署ごとの目標に沿って年間通して取り組むことができた。 ②部署ごとに業務アシスタント、学校業務サポーターと協働して業務を進めることができた。次年度の教育課程やグループ編成を見直し、教員減に対応できる体制づくりを行った。	①今後も病院の情報をアンテナ高くキャッチし、学校としてタイムリーに必要な対応を行っていく。 引き続き、部署ごとに目標を定め、自分事として不祥事・事故防止に努めていく。 ②今後も職員間の連携を進めるとともに、業務の整理・削減についても取り組んでいく。 見直した教育課程、グループ編成について、検証を行う。	②・教育課程の見直しについて共感する。横浜市でも、総授業数を減らし、教員が教材研究できる時間を確保するようにしている。 ・学校が社会から求められることが多くなっている。何をして何をしないか、見極めたうえで働き方改革を進めてほしい。 ・少ない教員で教育を行うためには、病弱教育の教科指導をリフレーミングしていく必要がある。教育の質的変換が求められている。	①病院の感染対策に合わせ、学校のマニュアルを改訂し、校内で共通理解しながら教育活動を安全に行うことができた。不祥事・事故防止については、目標に沿って取り組むことができた。 ②業務アシスタント、学校業務サポーターと協働して、業務負担を軽減することができた。 教育課程やグループ編成を見直した。	①今後も状況に応じた感染対策を継続していく。引き続き、部署ごとに目標を定め、自分事として不祥事・事故防止に努めていく。 ②引き続き、業務整理・削減に取り組む。 見直した教育課程、グループ編成について、検証を行う。